

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4491100071		
法人名	社会福祉法人明峰会		
事業所名	グループホームオハナ		
所在地	大分県宇佐市大字四日市4452-1		
自己評価作成日	平成29年2月28日	評価結果市町村受理日	平成29年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_pref_search_list&list=true&PrefCd=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府巻番館 1F		
訪問調査日	平成29年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、高台の閑静な住宅街に位置しており、緑豊かな自然に恵まれ、四季折々を感じていただける環境にあります。昨年より、公文式学習療法を開始致しました。学習を行う間は、ご利用者様と1対1で、ゆっくりと関わることが出来ており、ご利用者様の素敵な一面を伺うことが出来ます。今後も継続し、ご利用者様の可能性を引き出せる様にしていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者・障がい者を支援する社会福祉法人(9事業所)として「あなたらしく生きる喜びをともに過ごす」暮らしの営みを柱に、多事業所との相互の資源活用も図られています。「和笑輪」の理念への立ち返りを援助の糧に、幅広く関わり合える豊かな関係「ふれあい」と和を大切にしようとするもうひとつの家族づくりの息づく支援への取り組みに努めています。管理者は、個の職員力やチーム力による繋がりへの支援と質の向上、家族の思いの把握と三者間の交流、地域の一員としての相互の関係づくり・構築などへの着目において、これからの施設運営を見渡した今後の取り組みにおいても、生涯の暮らしが安んじ・安心して(笑顔ある暮らしの営み・重度化と看取り支援・危機管理など)過ごせる施設(家庭)運営へと、視野を広げています。利用者の状態の把握と個々の職員の気づき・職員間の周知を大切に、家族との情報の共有を図りながら、個々の利用者に向き合いながら、生活の見直し・改善に努める姿勢が伺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼の際、法人理念と事業所理念を唱和し、意識付けを行っている。職員間の意見の相違があった際は、理念に立ち返り検討する様に心がけている。	福祉への営み(法人)と、独自性(事業所)の理念「和笑輪」を運営の基盤に掲げ、支援に努める姿が伺えます。理念への立ち返りにおいては、日々の唱和と毎月の会議や随時の検討が図られており、職員への意識づけと周知に繋がっています。	施設・利用者・地域の状況の変化の顧みや、諸ニーズを兼ね備えた事業の有り方についての年間目標への取り組みなど、施設の役割りの検討、更なる展開による運営の向上に期待が持たれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントやお祭りに参加している。また、今年8月には、ケアハウスと合同で納涼祭を開催し、地域の方やご家族様に参加頂き交流を図ることができた。	納涼祭(施設行事)ではチラシのポストインによる地域参加への呼びかけ、秋祭り(地域行事)への参加など、相互交流の機会を大切に関係構築に取り組んでいます。地域食材の購入や中学生の体験学習やボランティアの訪問も行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	納涼祭の時、介護教室を開き、「認知症について」参加者の皆様と話しをすることができた。また、毎年地域の清掃活動に参加をしているが、ご利用者様の参加は、一定の方に限られている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、ご家族様をはじめ、地域の方にも参加して頂いている。広報誌のオハナ日記は、年6回発行。また、参加者より認知症に限らず沢山の意見を頂き、参考にさせて頂いている。	市担当者・自治区委員・家族代表・利用者の参加の中で、施設状況の報告による意見交換の営みや、地域情報の受容に努めています。地域社会の一員としての暮らしへの着目において、相互間交流への漸進的な取り組みの様子が伺えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度、実地指導を受けた際、事前準備などでは、分からないことを電話や訪問により尋ねる機会が多かった。また、当日は的確なアドバイスや指導を受けることが出来た。	運営状況や利用者に関する諸手続き、書類の関連などの多義にわたる相談に至るアドバイスを実践に繋げており、積極的な関わりの中で相互の関係づくりが行われています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上、夜間帯のみ玄関の施錠は行っている。現在、身体拘束に当たる様な事案はないが、身体拘束や高齢者虐待防止について話し合う機会には設けている。	職員会議での勉強会において研修の機会を設け、職員相互の周知に努めています。管理者は、職員への日々の業務における気づきの大切さを支持しており、職員への個別対応にも取り組む中で、年間研修計画の必要性を意図しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、勉強会を行い、職員全員に意識付けを行った。対応の方法等に迷うことがあれば職員間で話し合える様に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、安心サポートを利用しているご利用者様が1名いる。今後、安心サポートの利用を検討した方が良い方もおり、連携を図っていききたい。安心サポートの活用内容を職員全員の周知までは至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書を読み上げ説明を行っている。また、不安や疑問があれば、丁寧に説明を行う様に心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年9月に家族会を開催した際、ご家族様より意見を頂き、改善に努めた。また、その際頂いた意見を掲示した。	第一回家族会と行事(敬老会)とのタイアップによる開催(10名の参加)や、交流の場づくり(イベントへのお誘い)にも努めています。家族への現状報告(広報誌や個別のお手紙送付)にて状況の報告も行われており、相互理解を深めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時や職員会で意見や提案を聞けるように心がけている。出来る範囲で意見を尊重出来る様にしている。	「職員会議事前資料」及び課題と改善策の活用にて、質の向上に努める仕組みが伺えます。疑問や課題への配慮(介護技術の向上と利用者への関わりの探求・統一化)が図られています。面接(年2回)では、思いや意向の把握に取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与の水準や労働時間は、法人の定める基準によって実施しており、職員の努力の姿勢や実績は細かく評価するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員1名が認知症介護実践リーダー研修に参加した。必要と思われる研修には、参加できるように配慮している。また学習療法の取り組みでは、実践士に育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修へ参加することで、他事業所の職員と連絡を取り合い、情報の交換を行うことができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には、しっかりと話を傾聴する様に心がけ、不安や要望の把握に努めている。自己表出が難しい方には、手を摩るなどスキンシップを取ることもある。初期にはコミュニケーションをしっかりと取る様に心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族様と話し合いの場を設け、要望を伺い、職員間で方針を決め取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅での生活習慣を伺い、施設でいかに楽しく過ごして頂くか、検討し、必要な支援を見極める様に努めている。また、定期的にケアマネと連絡を取り合い、その他のサービスや医療を検討することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様が主体となり支え合える様に支援している。一緒に洗濯ものを畳んだり、起床の声掛けをお願いすることもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日や施設行事の際は、ご家族様の参加声掛けを行い、一緒に過ごして頂いている。また、来所時は広報誌「オハナ日記」を渡し、普段の生活が伺えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	法人内の施設より知人が訪問し、俳句やカラオケなどをして過ごされることがある。また、地域の友人や敬老会の方の訪問もある。	豊かな暮らしぶりへの援助の営みとして、ケアハウスに住いの友人訪問や、お正月帰宅・ふるさと訪問・美容院の利用などに取り組んでいます。利用者の思いを大切に、家族との連携を図りながら、馴染みの関係支援への配慮に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話が弾むなどご利用者様同士の輪を大切に過ごされている。時折、会話中などにトラブルもあるが、その都度、散歩やカラオケなどで気分転換を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も病院入院中にお見舞いに行くなど、これまでの関係維持に努めている。また、亡くなられた場合は、お参りにいくこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話の中の本人の思いを聞きとっている。意思表示が難しい方は、ご家族様から聞き取りを行っている。	生活歴を暮らしに活かす支援(イベントでのハーモニカ演奏・ミシンを使ってのプレゼント作品づくりなど、個の利用者の役割りを行動に繋ぐ育みの様子が伺えます。思いを大切に気分転換を図りながら、利用者相互の関係づくりにも努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に聞き取りで得た情報やご本人様との会話の中から現在の思いを取り入れて馴染みの生活が送れる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録やバイタル表を活用し、心身状態の把握を全員で共有している。ケアプランに沿った活動を全員で共有し、ケアプランに沿った活動を一日ひとつでも行えるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様ご家族様から随時要望を聞いている。担当職員の意見を参考にしたり、職員全体(会議)で話し合ったアイデアを取り入れることもある。	業務日誌により、日常生活から見受けられる心身状況への気づきは業務日誌に記載され、職員間の共有に繋がっています。担当職員との利用者の状態の確認、会議での協議により計画の見直しが進められ職員の周知に至っています。	計画の周知徹底による共通支援への取り組みにおいて、目標による日々の計画の実践状況の把握の視点より、利用者の活動の様子が見える書式づくりへの工夫と、更なるモチベーション向上に期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別ケア記録の中に、介護日誌には特別事項を記入し、職員間で情報を共有する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	カラーセラピー、コラージュ体験のほか、今年度公文式学習療法を取り入れ音読や簡単な計算を楽しく行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	食材は地域の商店より購入して、お米は法人内の安心家族から購入している。季節の行事は、地域へ出向き、また地区の秋祭りや清掃活動にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様、ご家族様の意向に沿った加療を行える様は配慮し、往診受診後には、職員が付き添い主治医と連携が図れるように努めている。	高齢化により医療依存度も高く、協力医や従来の主治医等、利用者・家族の希望に応じ、家族と協力し支援をしています。利用者の多くが協力医をかかりつけ医として往診や日頃の相談等を受け、医療との協力関係を築いています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の様子観察、記録報告を行いご利用者様に適切な処置を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを作成し、施設でのご利用者様の状態を申し送り、入院中退院後はムンテラに参加するなどし、状態把握を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けての話し合いを設けるように努めている。終末期の対応ケアの希望を書面で確認しているご家族様が1件ある。	利用者の体調変化により重度化が見込まれる時は、利用者、家族の希望に沿い協力医との連携で事業所の出来得る支援に取り組んでいます。ターミナルケアに関しては今迄対応事例がなく、支援方法等の確立が課題です。	看取りに関しては昨年より取り組んでおり、マニュアルの作成、研修会、勉強会及び他施設の事例等を参考に、知識の共有、職員の不安軽減に向け、検討を行っています。取り組みが実現化されるよう期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修参加、勉強会などを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、火災避難訓練を行っている。消防の方に来て頂き、ご利用者様の避難方法などを指導してもらっている。	9月、3月の年2回消防署立ち会いのもと、昼、夜を想定した避難訓練を行っています。事業所独自の訓練として、火災を想定し毎月1回実施し、「宇佐市消防競技大会」にも地区を代表し職員2名の参加もあり、地域の協力を努めています。	有事の際の地域との関わりは大切です。運営推進会議を通して地域や消防団との協力体制の構築に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの気持ちを尊重し特に入浴や排泄介助時にはさりげない声掛けを行い、プライバシーの配慮に心がけている。	年2回の研修会で接遇やプライバシーについて勉強しています。「スタッフの心構え」の中にも、尊厳を持った言葉遣いや対応を心掛け、プライバシーや守秘義務についても周知徹底を図ると記載され守られています。特に入浴、排泄支援では注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけご利用者様が決定できるように説明や思いを表すことが出来るように自己決定を引き出しやすい声掛けを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に、食事の際はゆっくりとした環境を提供できる様に心がけている。また、起床は就寝時間もその方のペースに配慮し、中の過ごし方は自由で一人ひとりその日の気分で過ごして頂ける様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	適切な衣類の選択が出来にくい方には、ご本人様の気持ちを大切にし助言を行ったり、美容室の利用やヘアカラーなどご本人様の意思に沿った支援をしている。また、職員の手によるカラー染を行うこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の厨房に、職員と一緒に取りに行き、盛り付けや後片付けを行うことが日課である。食事は、ゆっくりとした時間の中で食べて頂いている。正月のおせち料理は職員による手作りを行った。	法人栄養士の作成した献立を使用し、昼と夜の食事は配食されています。朝食、おやつ、月2回の昼食等は利用者の嗜好や食事形態を勘案し事業所で調理を行っており、楽しみとなっています。隣接する法人の厨房まで食事を取りに行く役割を利用者は「自分の仕事」として毎日の生き甲斐としています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士が立てた献立であり、バランスよく提供できている。また、個人に合わせた食事形態で提供している。刻み食やとろみ剤を使用せざる負えない方が増えつつある。一人ひとりの水分チェックや食事は、個別に把握できるよう記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりに口腔ケアをする様に声掛けをし、行う際は職員が側について見守り確認を行う。咳嗽が出来ない方は、職員がガーゼを使用し口腔ケアを行っている。歯科医の歯磨き指導があり、数名実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	無理強いせず、個々の排泄パターンに合わせて早めの声掛けや誘導を行っている。入所時、夜間帯におむつ使用のご利用者様をリハビリパンツへと移行した。	排泄チェック表をもとに、利用者一人ひとりのパターンを把握し、声掛けや誘導を行っています。必ずトイレでの排泄を基本とし、リハビリも兼ね、自立支援に繋げています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定時の水分補時に乳製品やOS1をゼリーにしたりして食べて頂いている。繊維の多いごぼう、こんにゃく他野菜を多くする献立にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気の合うご利用者様同士で入浴して頂いたり、入浴を拒否されるご利用者様には声掛けを工夫をしてりし入浴して頂いている。無理強いせず、拒否される方は、入浴日を変更したりする。	入浴は週3回の支援を基本としており、希望があれば毎日の入浴も可能です。浴室や脱衣所の温度管理やゆっくりとした支援で寛ぎの入浴に努め、仲の良い利用者同士で入浴したり、湯温、時間等好みに合わせ楽しく入浴できるよう配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせ夜間の睡眠の妨げにならない程度で日中臥床して頂いている。また、夜間帯の適度な室温を設定している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助する際は、日時氏名等他を声を出し確認している。服薬内容等変わった時は日誌に記録し情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせ食事前にはテーブル拭き、おかず分け、別ユニットへおかず運びを行っている。レクリエーションでは、個々に合わせ(塗り絵、ミシン掛け、カラオケ等を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は短時間でも出来るだけ外へ出て差歩歩に行ったり、季節の行事や地域の行事に参加して頂いている。	病院受診の際、買い物をされる方、周辺を散歩される方、隣接するケアハウスに食事を取りにいられる方等、個人の希望に出来る限り対応しています。また、週間計画表の中に「喫茶の日」を設け、庭で音楽やお茶を楽しみ、気分転換を図る支援を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度のお金を所持しているご利用者様は、ごくわずかである。主に事業所で管理を実施。外出の際に個別に財布を準備しても実際にやり取りができる方は限られている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今年は、ご家族様宛てに年賀状を送った。また、ご家族様からの電話の取り次ぎを行い、ケアハウスの公衆電話からご家族様へ電話かけることもあった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、湿度の調整、換気などを行い、その時に応じた音楽を流し居心地の良い環境を提供出来る様に努めている。季節毎の行事に合わせての壁面作り等も行っている。足踏みミシンやカラオケ機器などを置いている。	壁面には利用者と職員の共同制作の作品や折り紙の作品、行事の写真が飾られ、楽しく温かい雰囲気の中で落ち着いて利用者が過ごせる共用空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席やソファ等で気の合うもの同士話をしたり歌を歌ったり、テレビを見て過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にはご本人様の使い慣れたものを持って来てもらう様にご家族様に話をしている。(枕や人形等)また後家族様やペットの写真飾っている方もいる。また、居室にてテレビを置いている方もいる。	ベッドとタンス、イスが備え付けられ、その他馴染みの物(造花、家族写真、ぬいぐるみ等)が家族により持ち込まれ、自宅に近い暮らしが出来様工夫し思い思いの部屋づくりがされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「出来ること」「出来ないこと」の把握に努めている。出来る方には安全に配慮しながら調理の下ごしらえをして頂き、また食器洗いやおかずつぎ、洗濯ものたたみ等を行ってもらっている。		